

## 4章 熊本県の港湾が目指す方向

ここでは、県内の港が今後担うべき役割を明確にし、それぞれの役割についての整備方針を示します。なお、具体的取組みについては、「5章 ビジョンの実現に向けて」（19ページ以降）にあるように効率的・効果的な事業実施を行います。

### 4-1 東アジアを中心に広がる国際コンテナ輸送への対応

日本国内の輸出入量の99%以上は、港湾を利用しています。そのうちの約15%は海上コンテナ輸送となっております。

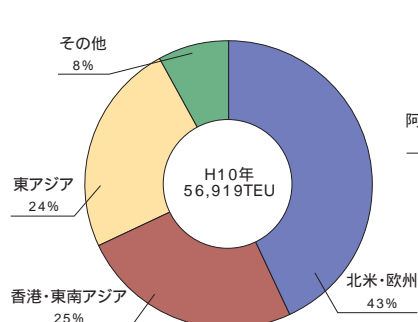
国際コンテナ航路の中で、我が国と北米・欧州などを結ぶ長距離国際基幹航路の拠点については、国土交通省が中心となって、中枢国際港湾である東京湾・伊勢湾・大阪湾及び北部九州の4地域に限定して重点的に整備を進めています。

近年は、アジアとりわけ東アジア諸国からの日用品や食料品、家電製品などの輸入や、これらの国々へ進出した日系企業との間の水平的輸出入などが増大するといった大きな物流構造の変化が生じ、東アジア諸国への国際輸送に国内輸送並のスピードやコスト削減が要求されるようになってきています。

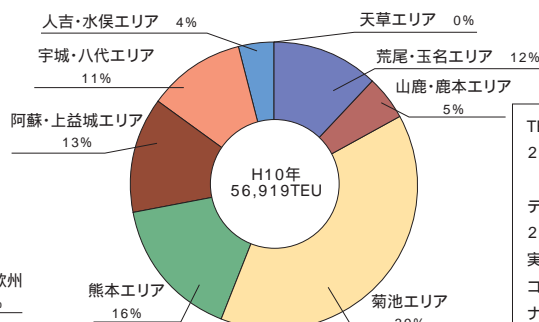
本県では、福岡県に次いで九州で2番目に量が多い国際コンテナ貨物が発着していますが、その約8割は博多港・北九州港を利用している状況です。本県のコンテナ貨物については、その約半分がアジアを相手にしている現状及



熊本県発着の国際コンテナ相手国  
(平成10年)熊本・八代港～釜山航路開設前  
熊本県港湾課調べ



熊本県内発着国際コンテナのエリア別在荷割合  
(平成10年)熊本・八代港～釜山航路開設前  
熊本県港湾課調べ



TEU: twenty-foot equivalent Unitsの略。  
20フィート換算量  
長さ20フィートコンテナを1としたコンテナ量を表す単位。コンテナには長さが20フィートと40フィートの2種類があり、実態を適切に把握するため、20フィートコンテナ1個=1TEU、40フィートコンテナ1個=2TEUとして計算するための単位。

び東アジアに近いという地理的特徴があり、平成11年開設された熊本港・八代港～釜山港のコンテナ国際定期航路での取扱量は順調に増大しています。

県内の国際コンテナ貨物輸送において、県内の港を利用する場合と、県外の港を利用する場合のそれぞれの輸送にかかるコストを比較してみると、県内の港を利用した方が、海上輸送コストは多少増えるものの、陸上輸送コストの低減効果が大きいいため、トータルでは輸送コストの削減が可能です。

特に輸送コストのうち陸上輸送コストが占める割合が相対的に高い東・東南アジアといった比較的近い諸国へのコンテナ輸送については、県外の港から県内の港への利用転換により大幅な輸送コスト削減が図られます。

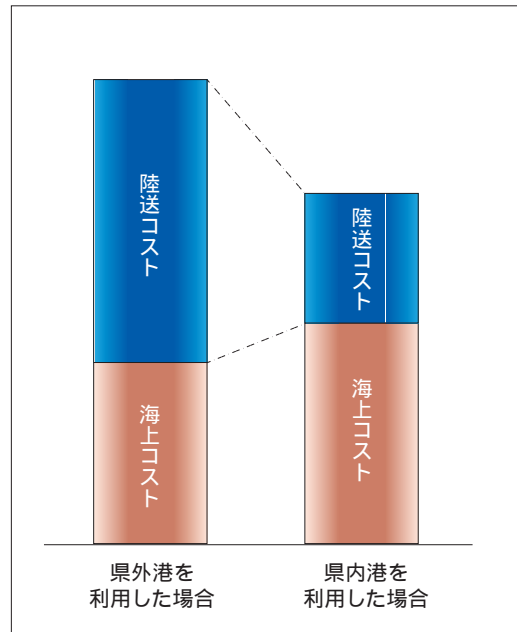
このように、県民の暮らしや県内産業競争力に大きな影響を与える東・東南アジアとの物流ネットワークの充実を図るため、次の方針により事業展開を図っていきます。

まず既存の釜山航路の充実・利用拡大を図るために、ポートセールスを行っていきます。

あわせて熊本港を、既存の釜山航路を中心に、韓国・中国東北部・九州で構成される環黄海経済圏及び台湾を含む近海航路の拠点とし、新たな定期航路の誘致を図ります。また、長期的には東アジア南部地域をも視野に入れた港湾施設整備・ポートセールスを行っていきます。

八代港においては、既存の釜山航路に加え、既に整備が終わっている水深10mコンテナバースをより効果的に利用するため、台湾・香港・中国南部の東アジア南部との航路の拠点として新規航路誘致を図ります。さらに東南アジアを視野に入れた港湾施設整備・ポートセールスを行っていきます。

国際コンテナ貨物の輸送コスト比較イメージ図

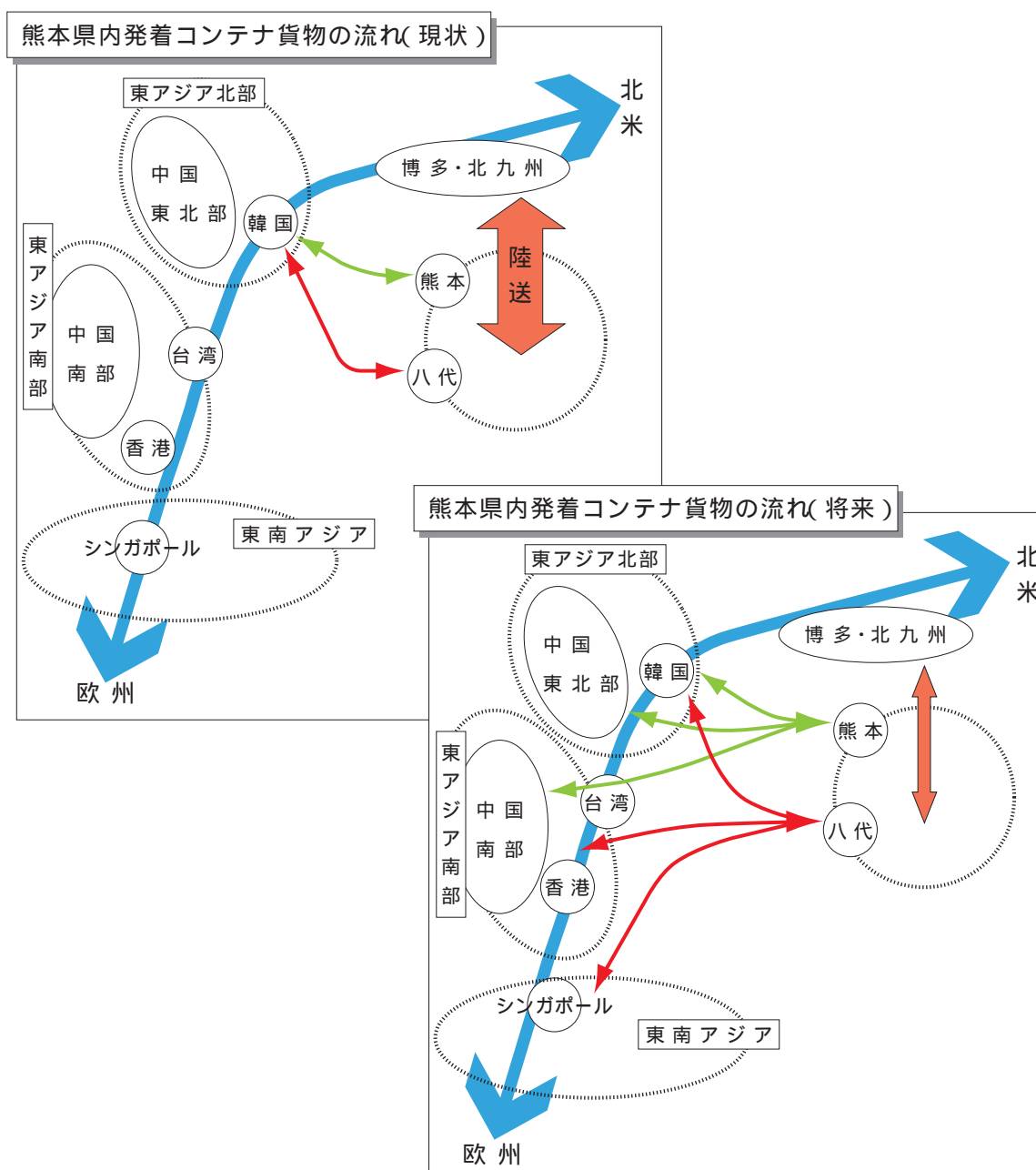


### 熊本港コンテナターミナル

平成11年にオープンした熊本港コンテナターミナルには、船へのコンテナの積みおろしをするクレーン、ヤード内のコンテナの運搬を行うストラドルキャリア、冷凍コンテナへ電気の供給を行うコンセント、貨物を一時保管するための上屋などが整備され、ハブ港である釜山港への週2便の定期航路利用コンテナ数は順調に増えています。

さらに、博多港など県外港を利用している北米・欧州とのコンテナ貨物については、熊本・八代両港から東アジア域内のハブ港<sup>11)</sup>(釜山港・高雄港など) 経由への転換を図り、輸送コストの削減を目指します。他県の港との競合の中で優位性を確保するため、より一層の業務の効率化・迅速化を図れるよう、港運業を始めとした関係企業・機関の皆様と連携して努力していきます。

このような、東・東南アジアを中心とした海外との物流の窓口となる熊本港、八代港の機能強化を図るうえで、背後の道路網の整備が不可欠です。そこで、特に熊本港・八代港と大消費地である熊本都市圏やその周辺の企業立地箇所とを結ぶ道路網整備については、道路事業と連携して進めていきます。



11) ハブ港：自転車の車輪の中心部（ハブ hub）からはスポークが放射状にのびている。そのハブのように世界中に路線が伸びる、要（かなめ）となる港湾。